



RIJAG IISIA 社会貢献事業 報告書

2019-2020

ご挨拶
(代表の挨拶挿入)

一般社団法人日本グローバル化研究機構 代表理事
株式会社原田武夫国際戦略情報研究所 代表 (CEO) (代表のサイン挿入)

運営団体（主催）

一般社団法人日本グローバル化研究機構（RIJAG）とは

非営利の一般社団法人であり、情報リテラシーの普及を目的とし、情報リテラシー教育に関する事業全般を国内外で展開すると共に、我が国および世界の人々と協力しつつ、国際的理諦の助長、相互信頼の増進を目的とした各種事業を展開しております。

同機構では、下記の三つのミッションを掲げております。

- ・激動の時代を迎えた国際社会において我が国に対して真に求められるグローバル化の方途を研究する
- ・我が国に求められる眞のグローバル化に資する有意な人財を育成する
- ・これら二つの目的に資する国内外の個人・組織等との協力体制を整える

■商号

一般社団法人日本グローバル化研究機構
Research Institute for Japan's Globalization
(略称：RIJAG)

■本社所在地

〒100-0005
東京都千代田区丸の内二丁目3番2号 郵船ビルディング3F

■事業内容

株式会社原田武夫国際戦略情報研究所による
社会貢献事業の共催
グローバル人財教育に関する資格認定事業
Global Economic Symposiumとの連携

■設立年月日

2011年9月22日

■お問い合わせ先

TEL 03-6256-0960 / FAX 03-6256-0959
E-mail: info@japans-globalization.org
WEB: <http://www.japans-globalization.org/>



RIJAG

運営団体（共催）

株式会社原田武夫国際戦略情報研究所（IISIA）

■商号

株式会社原田武夫国際戦略情報研究所
Institute for International Strategy and Information Analysis, Inc.
(略称：IISIA)

■本社所在地

〒100-0005
東京都千代田区丸の内二丁目3番2号 郵船ビルディング3F

■事業内容

国内外情勢に関する調査研究及び教育活動並びに経営コンサルティング業

■設立年月日

2007年4月2日

■資本金

300万円(2015年1月現在)

■お問い合わせ先

TEL 03-6256-0960 / FAX 03-6256-0959

E-mail: social@haradatakeo.com

WEB: <https://haradatakeo.com/>



目次

内容

ご挨拶	1
運営団体（主催）	2
運営団体（共催）	3
I. IISIA プレップ・スクール	6
1. IISIA プレップ・スクールの背景	6
2. 2019 年の基本方針	7
3. 初講受講生の分布	7
i. 所属大学	7
ii. 男女比	7
iii. 学年別の生徒分布	7
4. 講義内容	7
i. 第 1 回：5 月 7 日(火) これから何が起きるのか	8
ii. 第 2 回：6 月 4 日(火) 我が国の国制①	9
iii. 第 3 回：6 月 10 日(月) 我が国の国制②	9
iv. 第 4 回：6 月 25 日(火) 我が国の国制③	9
v. 第 5 回：7 月 1 日(月) 米欧主導の文明の本質①	10
vi. 第 6 回：7 月 16 日(火) 米欧主導の文明の本質②	10
vii. 夏合宿：8 月 20 日(火) - 22 日(木)	11
viii. 第 7 回：9 月 13 日(金) 米欧主導の文明の本質③	12
ix. 第 8 回：9 月 24 日(火) 新しい近代の超克論①	12
x. 第 9 回：10 月 8 日(火) 新しい近代の超克論②	13
xi. 第 10 回 定着度確認試験：10 月 21 日(月)	13
5. プレップ・スクール生の感想	13
i. 金澤工業大学 4 年 古賀喜一朗さん	13
ii. お茶の水女子大学 4 年 藤井理緒さん	14
iii. 新潟国際情報大学 4 年 五幣大地さん	15
II. 海外大学生サマーインターンシップ	15
1. はじめに	15
2. ロシア・UNECON と教育提携に至った経緯	16
3. 意義と目的	16
4. インターンシップ協定の締結に至るプロセス	16
i. 第 1 回ワークショップの開催 — 2018 年 12 月	16
ii. オンライン・プログラムの開講	17
iii. 第 2 回ワークショップの開催 — 2019 年 5 月	17

5.	インターンシップの概要	17
i.	実施期間	17
ii.	インターン学生	17
iii.	プログラムの内容	18
6.	インターンシップで伝えたこと	18
i.	目的・狙い	18
ii.	代表（CEO）・原田武夫及び研究員との分析ミーティング	19
iii.	予測分析シナリオ作成（「IISIA マンスリー・レポート」への寄稿）	19
iv.	日本語学習	19
v.	企業訪問	20
vi.	プレップ・スクール夏合宿への参加	20
7.	インターンシップ終了後のインターン生の声	21
i.	Kseniia Perova（クセニア・ペロヴァ）	21
ii.	Elena Gannochka（レナ・ガノチカ）	21
8.	今後の教育協定プログラム予定	22

I IISIA プレップ・スクール

1. IISIA プレップ・スクールの背景

「2005 年に始まった“学生寺子屋”（東大・一橋大・ICU にて自主ゼミとして開催）。その発展形として株式会社原田武夫国際戦略情報研究所（IISIA）が社会貢献事業として 2007 年から 2015 年まで実施した学生向け無償スクール」・・・それが IISIA プレップ・スクールです。これまで 300 名超の志ある学生の皆さんを東京・名古屋・福岡において育てて参りました。卒業生の皆さんには様々な分野・方面的の最前線に於いて活躍しています。

そして 2019 年 5 月、引き続き「IISIA プレップ・スクール」を開講いたしました。

【意義と目的】

- ・グローバル人財として我が国を牽引するリーダーに必要な知識、体験を集中的に習得する
- ・課題を通じて論理的に思考し、まとめ、発表する力を養う。また、グループ・ワークにより意見をまとめ発表する力もつける
- ・“情報リテラシー”の基礎を習得させる
- ・未来を自身で見通す能力を磨き、予測分析シナリオを作り上げることが出来るようにする

【授業内容】

既存の教育プログラムでは学ぶことが出来ない、「本当の教養」。
とりわけ現在の支配的なシステムである「グローバル・金融・デジタル」と、
その背景にある国内外の歴史に関する徹底した学習、更にはその上に立った
「これからの中の世界、わが国、そして自分自身」の進むべき道を自ら切り開くためのスキルを習得します。

2. 2019 年の基本方針

従来、IISIA プレップ・スクールでは文献購読をメインとして行ってきましたが、

- (1) デジタル化 (digitization) の急速な展開に基づき「現実が書かれた情報を遙かに凌駕するスピードで展開している」という基本認識、及び
- (2) まずは自己否定力としての“気づき”を得た受講者に対してのみ、次のフェーズでベースとなる参考文献の集中講読を行う機会を与えるべきである

という 2 つの基本方針から、今年（2019 年）度は前半において文献購読は一切行いませんでした。

9 回目の講義が終了した段階で 10 回目を考查実施のタイミングとし、それまでソクラテス・メソッドに則って集中的に行ってきた前半講義の全てを対象範囲とした試験を実施致しました。

十分な“気づき”を得、また「その先」を自主的に学びたいと答案から判断出来た者にだけ、後半の講義を受講する権利を与え、参考文献を提示しました。

また、大学の夏休み期間を利用して「夏合宿」を実施しました。

3. 初講受講生の分布

i. 所属大学

東京大学が 8 名、慶應義塾大学が 6 名のほか、お茶の水女子大学、上智大学、東洋大学、東京海洋大学、金沢工業大学、明治大学、新潟国際情報大学、日本大学、放送大学、Semmelweis University (ハンガリー) がそれぞれ 1 名ずつ参加しました。

ii. 男女比

24 名中 7 名 (29%) が女性、17 名 (71%) が男性でした。

iii. 学年別の生徒分布

学部 1 年生 1 名、2 年生 5 名、3 年生 6 名、4 年生 6 名、既卒 1 名、大学院生及び通信学生が 5 名でした。

4. 講義内容

RIJAG 理事、IISIA 代表（CEO）・原田武夫が金融、歴史、外交からリーダーシップのあり方にいたるまで、将来グローバル人財となるため、また我が国を導いていくリーダーとなるために必要な内容を講義形式で学生たちに教えました。独自の切り口で問題の核心に気づかせる、生きた学問を毎回のテーマに掲げて伝えるとともに、学生からの質問を募り、主体的な参加を求め、「気づき」を促しました。

i. 第1回：5月7日(火) これから何が起きるのか

24名の学生が参加した第1回 IISIA プレップ・スクールでは、講師・原田武夫が自らの経験について紹介した後、「情報リテラシー」とは何であるのか、これから何が起きるのか、それに対して私達はどうするべきであるのか、濃密に語りました。大学では学べない「本質」について講師から聞かされた学生から、熱心な質問が沢山投げかけられました。

ii. 第2回：6月4日（火）我が国の国制①

「本質を知りたい」と志す学生達が集う IISIA プレップ・スクール第2回目は、学生から就職活動について質問を受けた講師・原田武夫が日本の歴史を題材として取り上げながら、若い人達が自分の可能性を広げるべく「保守的にならないこと」が必要であると説きました。

IISIA プレップ・スクールの歴代卒業生の活躍にも触れつつ、学生達は自らの可能性の高さを実感出来たのではないかと思います。

「本当のことを知る」とはどのような教育を指すのか、本当のリーダーシップ教育とは何なのか、白熱する学生側からの Q&A の中で学生の顔色に確かな変化が見られました。

iii. 第3回：6月10日（月）我が国の国制②

「我が国の国制②～諸外国との比較も踏まえ我が国社会を知る～」というテーマで、前回に引き続き、天皇制や京都を理解することの重要性を講師・原田武夫が説きました。

「秦氏が果たした役割とその意味」について言及したほか、我が国を取り巻く利権問題について戦後から我が国が経た歴史的経緯について、「王権が存在する本当の意味」を踏まえた我が国の主権構造を明らかにしながら、解説しました。

iv. 第4回：6月25日（火）我が国の国制③

前回講義の振り返りから始まった第4回講義「我が国の国制③～我が国の近現代における経済システムを知る～」では、毎回恒例の質疑応答において「我が国の銀行の役割」について質問が出ました。

それに対し、講師・原田武夫が「1980～90年代の我が国で起こったこと」、「我が国の不動産事情の特殊性とそれに対する銀行の役割」を切り口として詳説しました。第4回の主題として、「歴史を知らなければ、今起こっていることが何も理解出来ない」という前提に立ち、「我が国の江戸時代頃からの歴史」から「我が国のメガバンクを取り巻く環境」を概観しました。

v. 第5回：7月1日（月）米欧主導の文明の本質①

国内情勢を中心に様々なトピックを取り上げてきた前回から一転して、今回からはグローバル・マクロ（国際的資金循環）を考える際に踏まえるべき米欧勢事情を取り上げました。

冒頭、「昨今の大学事情」、「英語が話されなくなる日」について取り上げた中で、講師・原田武夫が人生を生き抜くうえで重要な「メンター」との出会いが重要であることを伝えたところ、学生達は真剣に聞き入っていました。

更に時事問題として「トランプ米大統領のDMZ（南北非武装地帯）での金正恩第一書記との面会」

について、「日米同盟への影響」という観点から解説がなされました。そして、本日の主題である「米欧勢の役割」、「インターネットが無くなる日?」、「我が国を巡る情報遷都は何か、次に我々が突入する世界秩序とは何か」など、更に議論を深めました。

vi. 第6回：7月16日（火）米欧主導の文明の本質②

夏休み前最後の講義となった第6回 IISIA プレップ・スクールは、「文明と国家の違いとは何か？」という、講師・原田武夫による問いかけからスタートしました。文明論といえば、S.ハントンの『文明の衝突』が有名ですが、第6回講義では改めて「教養を得るための手段としての読書の大切さ」を学びました。

「資本主義、共産主義、社会主義の連関性、そしていま米国勢が目指しているものとは何なのか」と議論は発展し、資本主義が崩壊する理由について詳しく解説されました。

vii. 夏合宿：8月20日（火） - 22日（木）

合宿1日目、10:00に東京駅で集合したプレップ・スクール生と講師・原田武夫、ならびにスタッフは特急列車で千葉県白子に向かいました。

昼食後の午後の部では、ディスカッションを踏えたプレゼンテーションの時間が設けられました。限られた時間の中で、それぞれの学生グループが命題の「本質」を「MECE(重複なく、漏れがない)」で分析し、発表を行いました。

2日目は4:30に起床後、講師・原田武夫が実際に電子媒体を用いて「公開情報分析」をどのように行うのかを伝授し、学生達もそれに倣って「いつ、どのメディアから発表された、なんというタイトルの記事が、どのような重要性を持つと考えられるのか」について、それぞれ発表を行いました。

同日、昼前に合流したロシア人インターン生2名を交えて昼食を取った後、「北方領土は日本に返還されるべきか否か」というトピックで、2チームに分かれ、英語討論を行いました。

積極的かつ単純明快な主張をすることが、討論の場、特に双方の国家が国益をかけて衝突する外交の舞台においては重要であると、学生たちは実践的に学びました。

最終日3日目の朝、4:30に起きた学生達は、報告発表に向け最終調整をしました。

金融マーケットにおける一つの指標として「日経平均株価」を題材として取り上げ、来年2020年、その3年後、5年後、10年後、30年後に至るまで、日本や世界でどのようなイベントが発生するのかという予測シナリオを作成しました。発表は日本人学生のみならず、ロシア人インターン生も加わり、全部英語で行われました。

viii. 第7回：9月13日（金）米欧主導の文明の本質③

夏合宿の終了後、第 7 回を迎えた IISIA プレップ・スクールは「米欧主導の文明の本質③～中「夏」文明の本質と米欧との角逐を知る～」というタイトルで講義を行いました。

冒頭、生徒からの質問に答える形で、講師・原田武夫が「最新のエネルギー事情」について、自らが世界エネルギー評議会に参加した 所感も踏まえて、世界の中でも特に中東地域で生じている”変化“について語りました。

続けて、2019 年 9 月 13 日の潮目について、更にはこれから起こる本当のこと、そして中「華」ではなく、中「夏」と表記されるところの中国大陆について、数千年以上も前から続く文明の本質を解説しました。

ix. 第 8 回：9 月 24 日（火）新しい近代の超克論①

第 8 回 IISIA プレップ・スクールでは、日銀のバランスシートにおける金塊の持つ意味合い等、学生から寄せられた質問に対する解説がなされた後、「日本にはそもそも近代と呼べる時代があったのか？」という問い合わせから、「近代の超克」を巡る事情について掘り下げました。

資本主義が行き詰まる現代社会であるからこそ知るべき、考えるべき「価値観」とは何なのか。学生達とともに考えました。

x. 第 9 回：10 月 8 日（火）新しい近代の超克論②

前回 IISIA プレップ・スクールに引き続き「新しい近代の超克論②～「近代の超克」が目指すべき今後の方向性～」というタイトルで行われた講義では、学生たちから宗教学に関する質問が相次ぎ、講師・原田武夫が丁寧に解説しました。

「未来に何が起こるのか？」という問い合わせは人類共通の関心事です。台風 19 号が東京の都心を直撃するなど、「想像を超える事態」が相次ぐ昨今において、想定し得る問題に焦点を当てました。

xi. 第 10 回 定着度確認試験：10 月 21 日（月）

過去 9 回の講義の理解度・定着度を確認するため、90 分制限の試験を行いました。

第 1 問では、「情報リテラシー」とは何であるか、類似概念との比較や現代のグローバル社会におけるアクチュアリティに照らし合わせた質問がなされました。

第 2 問では、米欧勢における「神智学」及び我が国から興隆すべき「言靈音義説」を踏まえた、「情報リテラシー」の目的を問いました。

第 3 問では、財政法第 44 条が意味するのはなにであるか、我が国の国制に関する議論と紐づけた上で問いました。

受験者全員が合格ライン（50 点/100 点満点中）に到達しました。

5. プレップ・スクール生の感想

i. 金澤工業大学 4 年 古賀喜一朗さん

Q. IISIA プレップ・スクールのどのような点に価値を見出しますか？

A. 私にとって IISIA プレップスクールはリーダーとなる大学生は受けるべき講義であると思います。なぜなら、この激動の時代を切り抜けてリーダーは未来を予測してメンバーを導いていく必要があるからです。そのためには本当の歴史、見えているものの奥に何があるのかを見抜く力が必要になってきます。これらを得ることが出来るのが、原田先生が行っているプレップ・スクールなのです。IISIA プレップ・スクールでは大学では学ぶことが出来ない知識を習得し、情報リテラシーを学ぶことが出来ます。私はここで学んだことを活かして、メンバーを導くリーダーとなりたいです。

ii. お茶の水女子大学 4 年 藤井理緒さん

Q. IISIA プレップ・スクールでの学びをどのように将来に活かしたいですか？

A. 私にとって IISIA プレップスクールから学んだことは非常に多く、端的に共有することは非常に困難ですが、プログラムでは近い将来必要になる、国際問題や情報分析についての強力な基盤を与えてくれると思います。私は卒業後、国際機関でもシンクタンクでもない日本の公共機関で働くことになりますが、ここで得た経験は必ず、ただ組織に止まるだけでなくより大きな影響を与えるために活かかせると感じています。プログラムで原田先生は、学校でほとんど学ばないことを教えて下さり、経済、歴史、宗教研究などを網羅する学際的な内容でした。少々圧倒されますが、プレップによって物事を異なって見られるようになったり、世界をより全体的に理解するのにとても役立ちます。私はこの経験を得たことを非常に幸運だったと感じており、将来何らかの形で恩返しをしたいと思っています。

iii. 新潟国際情報大学4年 五幣大地さん

Q. IISIA プレップ・スクールに通うようになってから、自分のどんなところが変わりましたか？

A. プレップスクールに通い、大変多くのことを学ばせていただきました。大きな変化として、私自身が今まで触れてこなかった分野が相互に結びついているということを学びました。そうした点から、一つの小さな範囲を見るだけでなく、広い視点を持つように意識するようになったと感じております。また、自分自身が IISIA プレップ・スクールを通して学んだ事を、自分自身のためだけでなく、社会や周りの人たちにどう還元できるかという、広い考えを持つ事ができたと思います。IISIA プレップ・スクールを通して、大変貴重な経験をさせていただき、人間として成長できましたことを深く感謝しております。

II 海外大学生インターンシップ

1. はじめに

デジタル化が加速度的に進む今、我が国のみならず世界中のあらゆる国や企業は、グローバル社会で本当に活躍できる人財の育成を迫られています。情報の洪水が起きる中において、人間の脳による情報処理能力には限界があります。次世代を担うグローバル社会の若者には、情報を選び、分析し、未来シナリオを作るスキルが一層求められています。むしろそうした素養の在る人財に対する需要は高まる一方です。そこで求められるのは、いつ、いかなる場所にあろうと自らが置かれた文脈を知り、社会全体のために最適な行動とリーダーシップをとることが出来る能力＝“情報リテラシー”を習得することなのです。それがグローバル社会における人財育成の根幹にあるべきです。

こうした有意な若者を育成するべく、更には IISIA と RIJAG の共催によるこうした取り組みの舞台を名実ともにグローバル社会へと拡大させるべく、本年(2019 年)6 月にロシア・サンクトペテルブルグ国立経済大学 (UNECON) との間でインターンシップ協定を締結し、今年 8 月には初の試みとなる海外インターン生の受け入れを実施致しました。

ロシア・UNECON と教育提携に至った経緯

弊研究所は会員制サービス（「原田武夫
ゲマインシャフト」）の会員の皆様から頂いた会費から生じる利益の 50 パーセントを、明日の日本と世界を担う学生への支援を中心とした社会貢献事業に活用させて頂く旨、創立当初よりコミットして参りました。弊研究所は昨年（2018 年）ロシア・サンクトペテルブルグ国立経済大学との間で締結した合意に基づき、オンライン・プログラム及び現地でのワークショップを通じ、同大学の学部生を対象とした情報リテラシー（information literacy）教育の無償提供を開始致しました。本年 6 月には同大学との間においてインターンシップ協定を締結し、8 月に第一期生となるロシア人インターン生 2 名の受け入れを実施致しました。

2. 意義と目的

本協力協定をはじめとする弊研究所の“情報リテラシー”教育は、グローバル社会においてリーダーシップを発揮することが期待される海外の優れた学生を対象に地球規模で“情報リテラシー”を無償で習得する機会を提供することにより、近い未来に到来する様々な困難を乗り越えた先に真のあるべき世界を構築する一助となることを目的に掲げております。その際、弊研究所のミッションである「Pax Japonica」を実現するべく、将来を担うグローバルリーダーたちに我が国の在り様を実地で学ぶ機会を与える目的で、本プログラムに新たにインターンシップを導入致しました。

3. インターンシップ協定の締結に至るプロセス

弊研究所は UNECON とのインターンシップ協定締結に向けて、現地におけるワークショップを含む様々な取組みを以下の通り展開致しました。

第1回ワークショップの開催 — 2018年12月

ロシア・サンクトペテルブルク国立経済大学との協力提携を締結し、署名に際しては弊研究所代表（CEO）・原田武夫が現地に赴きました。更には締結を記念し、同大学の学生及び教員を聴衆として「情報リテラシーとは何か？」と題する特別講義を英語で実施致しました。

オンライン・プログラムの開講

その後、同大学の学部生を対象に、オンライン形式での授業を実施致しました。具体的には

テーマごとに以下 1~4 のユニットを作成。弊研究所が毎週提示する質問に対して学生たちが約 300 word のエッセイを提出し、それに対するフィードバック及び議論の深掘りを行うというプロセスを繰り返し、学生たちの情報リテラシー向上を促しました。

ユニット 1: How to brush up your information literacy?

ユニット 2: Daily news and articles for synchronicity

ユニット 3: Learning Japanese corporate culture

ユニット 4: Get ready for internship in Japan

第 2 回ワークショップの開催—2019 年 5 月

第 2 回目のワークショップにおいては、2019 年 8 月に受入れ予定のインターン生の選考会も兼ねた形式で開催致しました。弊研究所代表（CEO）・原田武夫が「情報リテラシー」に関するラップアップ・セミナーと題して講演を行った後、同大学の教職員らが見守る中、書類選考を通過した学生を対象に、弊研究所の評価基準を基にした面接を実施致しました。

4. インターンシップの概要

実施期間

本年（2019 年）8 月 1 日～31 日までの 1 カ月間

インターン学生

- ・ Ksenia Perova (クセニア・ペロヴァ)
- ・ Elena Gannochka (レナ・ガノチカ)

プログラムの内容

UNECON からのインターン生 2 名である Kseniia Perova と Elena Gannochka は、東京都 内のマンスリー・マンションに入居し、実際に 一ヶ月間にわたって東京で生活しながら インターンシップに参加致しました。東京・丸 の内に位置する弊研究所のオフィスに朝 8 時に 出勤し、弊研究所代表（CEO）・原田武夫を はじめとする所員全員と共に我が国における 就業について学びつつ、“情報リテラシー”を習得 致しました。インターン生はその研究成果を 弊研究所が発行する月報（「IISIA マンスリー・レポート」）に寄稿したほか、弊研究所スタッフ による日本語のレッスンを集中的に受講する機会を得ました。更には我が国において卓越した リーダーシップを発揮している組織のトップを訪問し、その知見及び企業文化に触れるなど、 本プログラムであるからこそ体験できる多彩な内容となりました。

5. インターンシップで伝えたこと

i. 目的・狙い

- ・ “情報リテラシー”の基礎を習得させる
- ・ 未来を自ら見通す能力を磨き、予測分析シナリオを作り上げることが出来るようとする
- ・ 我が国で実際に生活し就業体験することで、我が国の企業文化に対する知見を深めさせる
- ・ グローバル社会で活躍する人財として我が国を牽引するリーダーに必要な知識・体験を集中的に習得 させる
- ・ 我が国と対話のできる親日的な人財を育成することで「Pax Japonica」の実現を目指す

ii. 代表（CEO）・原田武夫及び研究員との分析ミーティング

本分析ミーティングでは、将来リーダーとなりグローバル社会を導いていく上で不可欠な知識を、代表（CEO）・原田武夫及び研究員が英語でインターン生たちに教えました。ミーティングでは我が国のメディアに関する知られざる事実に関する講義を行った他、インターン生が強い関心を持っているテーマに関して討論を行ったり、分析レポートの書き方に関する質疑応答などを行ったりして実践の場を設けるなど、本人たち自身が「気付き」を得るように導いて参りました。

iii. 予測分析シナリオ作成（「IISIA マンスリー・レポート」への寄稿）

予測分析シナリオは政治、マーケット、軍事、テクノロジー、そしてインテリジェンスまで様々な領域を横断的に分析し「これから」起きることの連鎖を予測し、立体的に描き出したシナリオです。本インターンシップではロシア人インターン生が自ら設定したテーマに基づき、オンライン・プログラムやワークショップ並びに本インターンシップで学んだ“情報リテラシー”を駆使し、この予測分析シナリオ作成に取り組みました。議論と推敲を重ねた末、その研究成果を弊研究所が発行する月報（「IISIA マンスリー・レポート」）に寄稿致しました。インターン生たちはこれらのプロセスを通じて今後について自分たちの力で見通すための論理を実践的に学びました。



iv. 日本語学習

プログラム全体を通じて、インターン生たちは弊研究所のカリキュラムに基づく日本語学習を集中的に行う機会を得ました。日本語を学ぶのは初めてでしたが、ひらがなやカタカナを習得し、挨拶や基本的な会話を出来るレベルに短期間で到達することができました。ロシア・サンクトペテルブルグで年に2回実施される「日本語能力試験」の受験を視野に、帰国後も日本語学習を継続する基礎固めとなりました。

v. 企業訪問

インターン生は、我が国を代表する企業や組織において卓越したリーダーシップを発揮するトップのもとを訪れ、質疑応答及び御会話をする機会を得ました。面会に先立ち、インターン生たちは各自が訪問先の事業内容を調べ、質問を入念に準備した上で臨みました。

vi. プレップ・スクール夏合宿への参加

IISIA プレップ・スクールは、弊研究所の会員制サービス「原田武夫ゲマインシャフト」の会費から生じる利益の50パーセントを用いて実施させて頂いている社会貢献事業です。これまで約300名近い志ある学生を送り出し、卒業生の皆さんは様々な分野・方面の最前線にて活躍しております。

インターン生は8月下旬に千葉県の茂原市で実施した夏合宿に、我が国の聰明な9名の学生諸君と肩を並べて参加致しました。合宿中は、講師・原田武夫の指導の下、弊研究所が実践している公開情報分析や実践的な討論の演習などを集中的に英語で実施致しました。

6. インターンシップ終了後のインターン生の声

i. Ksenia Perova (クセニア・ペロヴァ)

My dream to visit Japan came true, because I succeeded in the internship at the IISIA. It was the best experience I have ever had. It was very useful and interesting for me to work at this company. I want to thank Mr. Harada for this opportunity to be an intern at IISIA. I was so lucky to be here and worked with such wonderful people. I would also like to thank all members of IISIA and all Japanese financial supporters who made my dream come true!

ii. Elena Gannochka (レナ・ガノチカ)

I do not want this internship to end, but unfortunately, there is no other way out. I have gained a huge experience and I am really thankful for this chance. I could not imagine that my life can turn like this, and I am glad it did. Without doubt, all the things I have been through while staying here will lead me to a beautiful future and I become a person whom I always wanted to be.

7. 今後の教育協定プログラム予定

本プログラムは UNECON から高い評価を受け、協力協定の更新を行いました。弊研究所と致しましては、情報が洪水のように溢れるグローバル社会において 我が国との関係上重要なカギを握るロシアの学生に“情報リテラシー”を習得させることの意義を自覚し、対外的に我が国の見解・意向をしっかりと理解し発信することの出来る人財の育成を加速すべく、活動を拡大させて参ります。

更に今年（2020年）1月には、ベトナム・フルブライト大学ベトナム校公共政策マネジメント大学院（FSPPM）と新たに協力協定を締結致しました。本件協力協定は弊研究所が海外の大学との間で締結した2番目の協力協定です。FSPPM は米国政府（米国務省）及びベトナム政府双方からの支援を受け、同国初の非営利私立大学として 2016 年に設立されました。同大学院が海外の民間組織・団体と協力協定を締結したのは、弊研究所が初めてです。

本件教育プログラムはそこでの学びを通じて、我が国に深い理解と関心を抱き続ける親日的な若きリーダーシップの育成も目標としています。弊研究所は今後、国内における学生に対するリーダーシップ教育と並び、本件教育プログラムという形でグローバル社会全体のための“情報リテラシー”教育の普及に取り組んで参る所存です。

更に今後は米国、中東、東アジアを含む幅広い国・地域における高等教育機関との間においても協力提携を締結し実行に移すべく、所員一同邁進してまいる所存でございます。

弊研究所は民間レベルにおける新しい試みである一連の教育プログラムを通じ、国連で採択された SDGs（持続可能な開発目標）の内、とりわけ SGD4（「質の高い教育をみんなに」）、SDG8（「働きがいも経済成長も」）、SDG16（「平和と公正をすべての人に」）、SDG17（「パートナーシップで目標を達成しよう」）の早期達成を実現すべく、より一層の貢献をして参ります。

弊研究所の新たな取り組みがどのような形で結実しつつあるか。本報告書から読み取って頂けましたら幸甚でございます。どうぞ引き続きご支援、ご指導の程衷心よりお願い申し上げます。

（了）